

国労ちば

国鉄労働組合
千葉地方本部
発着 井村 好博
編集 安田 正浩
【電話】
JR 2930 FAX 2934
NTT 043(238)5963
FAX 043(238)5967

国労は、
みんなのための
労組です

実態にこだわり声をあげよう！

電気協議会定期委員会開催

国労千葉地方電気協議会は2月13日、地本会議室にて、定期委員会を開催した。

はじめに、地本の井村委員長より挨拶を受け、続いて電気協議会の西村議長が挨拶した。

その後、次第にのっとり議事が進行された。

最初に電気職場で発生したコロナ感染における勤務問題や消毒に関する成果と課題など

が議論された。

また、勤務認証の問題など、これからも発生した時に同じ対応を取らせる必要性なども意思統一された。感染予防や拡大させない職場からの取組みなども確認した。

メンテナンソ合理化実施時の仕切りの検証をメンテナンソ合理化から2年が経過するが、当時の仕切りなど再度検証することなども確認された。

地方によって提案されている内容が違ったり、新たに提案されている実態からあらためて職場実態にこだわり、声をあげていこうと集約された。

コロナ禍でなかなか集まらない実態があるが、電話やメールなども活用しながら運動を進めることを確認し、委員会を終了した。

新役員体制
議長 西村 勲 (千葉信通)
事務長 今野 弘樹 (千葉電力)



安全・サービス切り捨てのダイヤ改正 不便と不安が増大 千葉駅頭で宣伝行動

2月16日、国労千葉地本は、千葉駅頭にて宣伝行動を開催した。訴えたのは、3月のダイヤ改正の内容だ。千葉から館山までの直通電車が減り、乗換えが増大。ワンマン運転の拡大。みどりの窓口の閉鎖、営業時間短縮と安全・サービスの切り捨て。昔はダイヤ改正という新たな車両の導入や接続時間の短縮とサービスの向上が基本だったが、今は真逆だ。



情報管理の対応を求める JESS社員代表者会議開催

2月5日、JESS千葉支店内の社員代表者による会議が開催され、問題を議論した。

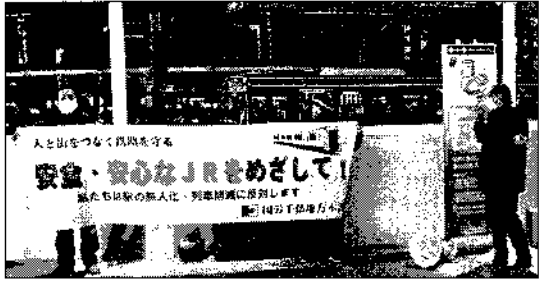
▼支店が出たコロナ感染者や支店内感染者の個人情報や支店から事象周知や対策等何もない。個人情報管理の問題。

▼社員代表者選挙について「何の代表選挙なのか」分からないとの声。JESSは代表選挙の重要性・大切さを周知させる事が必要。我々も社員代表者に求められるものを教え、労働組合の大切さ、組織拡大を展望した運動へ。▼「超動が出来なくなる」というプロパー

社員へ36協定についての訴えが必要。▼津田沼管区は両国分会と津田沼分会の組合員がいるため両分会で集まり意思統一する。▼選挙管理委員会が支店にあり、すべて支店主導。管区単位で労働者も入った選挙体制が望ましい。

▼要求を前進させようと36協定を半年締結としてきた。意見書は5管区内の問題や独自項目を追加してきた。

こうした議論から、一人駅設置予定の「見守りカメラ」の説明など7項目について会議後、支店へ申し入れた。



最近、国会議員のコメントで「しっかりと」や「しっかりと取り組んでいく」「しっかりと指導性を発揮する」と発言するが、何がどう「しっかりと」なのか。辞書では「物事の基礎や構成が堅固で安定しているさま」とある。「前向きに善処する」との表現も多用されるが「まあ、何とか頑張っではみるが、無理でしょうねえ」と聞こえるのは私だけか。コロナ禍で、夜の会食自粛のお願いが出て「しっかりと」破って飲み歩く先生たち。国民には緊急事態を宣言し「出歩くな。店は閉める。飲食するな」と、半ば強制しておきながら、上級国民の国会議員さまは夜の隠微な扉を開ける。政界幹部が勇めても我関せず。国民感情が理解できる「先生」は永田町にはいらっしやらないようだ。今年選挙の年となる。もうそろそろ、お人よしはやめにして「前向きな善処」ではなく、真に「しっかりと」した方を国会へ送ろう。(晃)

機関整備で運動の活性化へ

分会大会で意思統一



新浦安分会大会

1月28日、地本より加藤書記長・運協より石井議長が出席し、分会再編後、第四回となる分会大会を開催した。席巻するコロナにより生活環境も一年前とは様変わりしたが、我々を取り巻く環境も一層の厳しさを増している。

「コロナだけでなく社員の急病や勤務転換時の一時的な代務に、管理者がなせられない」「体調を考慮し、日勤駅へ転勤希望しても取り合ってもらえない」「短日数勤務を支店ではなくブロックが要員不足を理由に拒否する」「スイカでの入場券の『タッチでエキナカ』は果たして公平なサービスと言えるのか？悪用されるのが目に見えている」など問題が提起され、議論も盛り上がった。

共有から行動へ

着帽に関する管理者のパワハラ発言などこの間、声を上げ行動を起こしてきたことでそのような行為は収まっている。問題を共有し行動を起こすのがいかに大事

な事を再認識し、さらに、継続すること、社員代表を勝ち取ることを確認し合い、閉会した。昨今の情勢を踏まえ、新年会を兼ねた飲み会は中止にせざるを得ず、早期の収束を願うばかりだ。

新役員体制

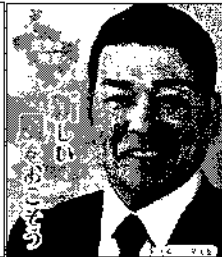
執行委員長 坂本暢雄（二保新町）
執行副委員長 佐藤達由（潮見）
書記長 佐川正則（千葉みなと）

東金市市議会議員選挙

立候補予定者 3月21日(日)投票

村上だいぞう

国労千葉地本推薦候補者



~~~~~

### 両国分会大会

2月12日、地方本部会議室において、第13回分会大会を開催。進行役は黒川副分会長が務めた。まず始めに、昨年急逝した加藤前分会長のご冥福を祈り、全員で黙祷した。

佐藤分会長は「みどりの窓口の閉鎖で改札担当者の負担が大きくなっていく。両国東口、亀戸東口の無人化などの施策は、今後乗降客が増加することが予想される中で実施されようとしている。分会全体で撤回を求めている」と挨拶。

浅草橋駅では、年休の消化ができない実態が続いていたが、みどりの窓口閉鎖で要員に余裕ができたため、ここぞとばかりに年休が入るようになった。亀戸東口では要員が逼迫し特休すら入らないなど、管内の要員バランスが悪いので改善を求めている。Suicaの入場券利用がはじまるが、旅客とのトラブルとならないか心配。改札の無人化を見越した施策だ。改札の無人化で異動を

求められているが、本人希望を無視したやり方に怒りを感じる。

### 何のための選挙か？

社員代表選挙についての議論では、分会全体で選挙を闘う体制を作ろうと話し合われた。とにかく労組未加入者やプロパー社員に「何のための選挙なのか、なぜ労働組合の組合員の代表が必要なのか」など、声掛けをし丁寧に話していこう。管区長には選挙のスケジュールや投票の立ち合い、などを明らかにするよう求めよう」と議論。

その後、JESS津田沼管区で共に働く津田沼分会の仲間と、合同の「社員代表選挙のに向けた打ち合わせ会議」を開催。あらためて現代表の平井駅石井さんを立候補者として全体で確認。

両分会が団結して選挙を闘うことで当選に向け取り組みを強化することを確認した。

### 新役員体制

分会長 佐藤良秋  
副分会長 黒川晴久  
書記長 松本光男

### 職場に労働運動を

今年もJRの社員代表選挙が行われた。

JR千葉支社は何としても社員代表を労働者・労働組合側から奪い取るため「社友会」を支社内一本化し、本社から深澤社長や人材担当部長まで送り込んできた。

私たちは、社員代表選挙と36協定の意義と重要性を訴え闘った。単独候補の当選は叶わなかったが、組合員以外からの信頼票を上乘せ出来た。キチンと総括し運動につなげよう。

### 何故「闘うネコ伝説」が生まれた？

地域公共交通対策委員会を取り組むにあたり「組合員が関わりやすい雰囲気を作り出すために何かはないか？」との思いがありました。

会議の中、かずさ地区担当から「マスコットなどのキャラクターを作成しては？」との意見が出され検討を始めました。

次に、「キャラクター作成を誰にお願いするのか？」が検討されました。

白羽の矢が当たったのは「国労団結まつり」の看板作りで活躍していたOBの須藤さんでした。作成にあたり、全て須藤さんに一任したところJR千葉支社が駅長犬を使用してキャンペーンを展開した事から会社に対抗する闘う取り組みの象徴としてネコを作成して頂きました。

そして、ついに2020年2月16日、8匹のネコが千葉市文化センターでの千葉県集会で初お披露目されました。

『闘うネコ伝説』は、作成をゴーストライターに依頼しました。しかし、他の業務が輻輳したため途中降板。現在は、2代目ライターが伝説を作っています。

ご意見・ご希望がありましたらドシドシお寄せください。

千葉地本地域公共交通対策委員会

